

●取り組む施策の方向性●

◆推進方策1：豊かな学びの創造と確かな学力の育成

- (1) 基礎・基本の確実な定着
- (2) 活用力・対応力の育成
- (3) 学ぶことの意義や楽しさを感じられる多様な学び
- (4) 京都と日本を知り、世界に通用するグローバル人材の育成
- (5) 府立高校における魅力的な学び

★主な取組

- 新しい時代に対応した指導体制の整備
- スタディ・ログ（学習履歴）の導入による個々の学習内容の蓄積、ICTを活用した学力テストの導入
- 「デジタルコンテンツセンター（仮称）」の創設
- オンラインによる双方向授業、対面指導と遠隔・オンライン授業によるハイブリッド学習の実施
- オンラインにより海外とつながる国内バーチャル留学の実施
- 魅力ある学びを進めるための「府立高校の在り方ビジョン」を新たに策定 等



◆推進方策4：学びを支える教育環境の整備

- (15) 安心・安全を守る学校危機管理
- (16) 多様な子どもたちを包み込む学びのセーフティネットの構築
- (17) 優れた教員の確保と資質能力の向上
- (18) 教職員がいきいきと子どもに向き合える環境づくり
- (19) 府立学校の整備促進

★主な取組

- 災害時や新興感染症等の非常時においても、子どもが安心して学べる学習保障
- 「こどもの居場所づくり」や「子ども食堂」に取り組む団体への図書貸出
- 「ICT教育官民連携プラットフォーム（仮称）」の創設
- 学校及び教員が担う業務の抜本的な削減、ICT環境の整備による業務効率化
- 学校施設の計画的な整備、産業教育設備等の整備 等



◆推進方策2：豊かな人間性の育成と多様性の尊重

- (6) 人権教育の推進
- (7) 豊かな心をはぐくむ道徳教育と読書活動
- (8) 自立と社会参加に向けた特別支援教育
- (9) 人格形成の基礎を培う幼児教育
- (10) いじめや暴力行為の防止対策の充実
- (11) 不登校児童生徒に対する学びの保障

★主な取組

- 多様性を尊重する学習の充実、「考える道徳」、「議論する道徳」の推進
- 読書活動を通じた創造力や表現力の育成
- 障害のある児童生徒の様々な可能性を伸ばすことができるICTを活用した学びの推進
- 幼児教育センターの機能強化
- 不登校児童生徒等へのICTを活用した個別学習などの推進 等



◆推進方策5：学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進

- (20) 家庭の教育力の向上
- (21) 地域の教育力の向上と地域とともにある学校づくり
- (22) 社会の担い手として生きる力をはぐくむ教育
- (23) 生涯学習の振興と社会教育施設の機能充実

★主な取組

- ICTを活用した新しい学習方法を保護者が体験
- 地域学校協働本部の設置支援、コミュニティ・スクールの導入推進
- 地域の支えで様々な教育課題を解決する「地域交響プロジェクト」の活用
- 山城・丹後郷土資料館の機能充実、丹後郷土資料館のリニューアル 等



◆推進方策3：健やかな身体の育成

- (12) 学校や地域におけるスポーツの機会の充実
- (13) 健康的な生活習慣の確立と健康課題への対応
- (14) 次世代アスリートの発掘・支援と競技力の向上

★主な取組

- 家庭と連携した幼児期から運動に親しむ習慣・環境づくり
- 食事の重要性、地域の食文化への興味・関心・理解を深める取組の推進
- オリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートによる講演や実技講習会の実施 等



◆推進方策6：文化振興と文化財の保存・継承・活用

- (24) 京都の伝統と文化を守り、新たな文化を創造する感性の育成
- (25) 文化芸術に親しむ環境づくり
- (26) 世界に誇る文化財の保存・継承・活用

★主な取組

- 茶道、華道、きものや伝統芸能など、日本の伝統文化や地域に伝わる民俗芸能の学習
- 美術・工芸を学ぶ高校生による校種を越えた小・中学生との交流・指導
- 地元の文化財を活用した課題解決型学習、世界に誇る貴重な文化財の保存と活用 等



第2期 京都府教育振興プラン

～教育環境日本一を目指して～

京都府教育委員会はこのたび、**今後10年間を見据えた新しい京都府の教育を進めていくための指針**として、「第2期京都府教育振興プラン」を策定しました。

基本理念の核である【目指す人間像】を、「めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人」とし、そして、そのために【はぐくみたい力】として、「**主体的に学び考える力**」「**多様な人とつながる力**」「**新たな価値を生み出す力**」を掲げました。

誰もが、かけがえのない一人の人間として、周囲の人々に支えられ、生かされています。

しかし、それを感じる事ができなければ、その想いに応えて「がんばろう」という気持ちは生まれません。私たちは、すべての子どもに、愛情や信頼や期待などに「**包み込まれているという感覚**」を持ってもらい、それを揺らぐことのない土台として「**自己肯定感**」をはぐくみ、予測が困難な社会においても主体的に学び考えることができる力や、失敗しても再び挑戦できる強い心を身に付けてほしいと考えています。

高い専門性をもって、日々子どもたちに寄り添う学校の教職員のみなさん。すべての教育の出発点である家庭の保護者のみなさま。そして、コミュニティの一員として子どもたちを迎え入れてくださる地域のみなさま。

教育に関わるすべての方々に、すべての子どもたちを見守り、支え、伸ばしていただくこと。それが、子どもたちが自分自身の力で新しい扉を開くための力になります。

誰もが、よりよい社会と幸福な人生の創り手となれる「教育環境日本一」に向けて、みなさまと手を携えながら、教育振興プランに基づく様々な取組を全力で実行してまいります。

発行：京都府教育委員会

編集：京都府教育庁管理部総務企画課

電話：075-414-5710

URL：http://www.kyoto-be.ne.jp/kyoto-be/



10年計画 令和3年度～令和12年度 第2期「京都府教育振興プラン」とは



プランには何が書いてあるの？

教育振興プランは長期的な展望に立って、京都府の教育の目指す方向を示すもので、「京都府ならではの教育」の基本となる計画として、とても大切な役割を持っています。

第2期となるプランでは、6つの教育分野ごとに「目指す教育の姿」を掲げており、大きな特徴のひとつです。その「目指す教育の姿」に到達するために、取り組まなければならない課題や目標を整理しています。



基本理念

【教育に関わるすべての者が大切にしたい思い】

自己肯定感

【はぐくみたい力】
主体的に
学び考える力

【はぐくみたい力】
多様な人と
つながる力

【目指す人間像】

めまぐるしく変化していく社会において、
変化を前向きにとらえて主体的に行動し、
よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人

【はぐくみたい力】
新たな価値を
生み出す力

【教育に関わるすべての者が大切にしたい思い】
包み込まれているという感覚

基本理念を実現するための6つの柱

- 1 豊かな学びの創造と
確かな学力の育成
- 2 豊かな人間性の育成と
多様性の尊重
- 3 健やかな身体の育成
- 4 学びを支える
教育環境の整備
- 5 学校・家庭・地域との連携・
協働と社会教育の推進
- 6 文化振興と
文化財の保存・継承・活用

教育環境日本一プロジェクト



「教育環境日本一プロジェクト」始動



教育の各分野ごとに整理した6つの柱では187の取組を掲げています。

その取組の中で、それぞれの柱にまたがる重要な課題に対して、新しい時代の必須アイテムであるICTを積極的に活用しながら、重点的かつ横断的に進めていくことを「教育環境日本一プロジェクト」と位置づけています。

このプロジェクトを始動させることにより、京都府が掲げる「子育て環境日本一」の実現に向けて欠かすことができない「教育環境日本一」を目指します。



ICTの積極的な活用
共通アプローチ

◆児童生徒1人1台端末の整備と非常時等における学びとつながりの保障

- ・双方向によるオンライン授業や家庭学習の支援
- ・不登校児童等に対する遠隔授業などセーフティネット体制の整備 等

◆データの分析・活用による新しい学習支援

- ・スタディ・ログ（学習履歴）の導入による個々の学習内容の蓄積
- ・CBT（コンピュータを用いた学力テスト）の導入による指導・支援 等

◆新時代の学習指導体制の構築と働き方改革の推進

- ・教科担任制の導入
- ・働き方改革に向けた業務の効率化 等

◆府立学校イノベーションと地域連携の推進

- ・コミュニティ・スクールの導入や地域・NPOとの連携の推進
- ・部活動の地域連携・移りの推進 等

◆子どもたちが学びやすい施設整備の推進

- ・職業学科における最先端の産業教育施設・設備の導入
- ・学校施設の大規模改修、トイレの洋式化の推進 等

